

INDEX

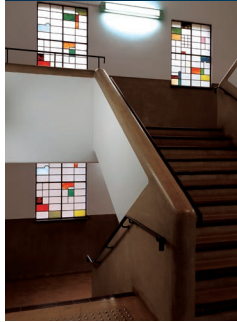
- 3 卒業生インタビュー  
ジャズシンガー
- 3 栗田麻利子さん（2003年文学部卒業）
- 6 奮闘！阪大生  
基礎工学部 環境サークル OFRAC  
法学部 外国語学部 ソフトボール部
- 8 O.U.T.ビックス  
ホームカミングデー 大阪大学の集い リーダーブローラム  
卒業生からの寄稿
- 10 私の「阪大のプライド」プロジェクト、第三話  
明治初年の大阪にあった幻の「帝国大学」  
―ハラタマの舎密局と仮病院・大阪医学校―その一
- 開 祐司（1975年理学部卒業）



- 14 海外同窓会ニユース  
欧州 上海 ロサンゼルス
- 15 各地同窓会ニユース  
トヨタ パナソニック 和歌山
- 16 阪大ファミリィ  
「阪大卒女性ネットワーク(関西)」設立！
- 17 卒業生の皆様へ  
大阪大学創立90周年  
大阪外国語大学創立100周年記念事業
- 18 インフォメーション  
ホームカミングデー  
2019年卒業生・同窓会イベントのご案内



■表紙写真「大阪大学待兼山修学館」  
1931年に大阪帝国大学医学部附属病院石橋分院本館として、待兼山に竣工。その後、医療技術短期大学の校舎として使用されていたが、2007年に総合学術博物館に改修した。約600点に及ぶ学術標本資料や発明品、歴史資料などが展示されている。中でも豊中キャンパスから発掘された約50万年前の「マチカネワニ」の化石は有名。レトロなステンドグラスがはめ込まれた建物は、2008年に国の登録有形文化財に指定された。



■裏表紙写真：「旧制浪速高等学校尋常科の玄関を飾ったステンドグラス」  
旧制浪速高等学校は昭和25年（1950年）大阪大学に編入され、同校尋常科の建物は大阪大学旧教養部物理棟として昭和末期まで使用された。その間、この建物で幾多の輝かしい仕事が行われ、世界一の分解能を誇る質量分析装置も完成されている。  
このステンドグラスは、現在、全学教育推進機構実験棟の1階の壁面に飾られている。



音楽は自分らしさを  
表現するツール

Asano Mari

ジャズシンガー

透明感ある歌声が魅力のジャズシンガー、栗田麻利子さん。2003年に文学部を卒業後、会社勤務を経てジャズの名門、米・パークリー音楽大学へ留学し、プロの道へ。現在は名古屋を拠点に音楽活動を続けている。学生時代の思い出や音楽に対する思いなどを阪大の職員二人が聞いた。

―人間科学部卒業の小住です。  
お会いするのを楽しみにしていました。  
文学部の後輩、松本です。  
よろしくお願ひします。

懐かしい思い出が詰まった  
学生時代

―まず、阪大に入学したきっかけをお聞かせください。  
栗田 母がエレクトーンの先生をしていたので、小さい頃から音楽は身近な存在でした。歌とダンスが好きで、母にミュージカルやコンサートによく連れて行ってもらいました。阪大では音楽についてはもちろん、美術史や演劇学、美学が学べると知って、思う存分、好きな分野の勉強ができると思いました。それと、阪大なら、しょっちゅう宝塚歌劇を観に行けるんじゃないかと思って(笑)。

―どんな学生時代でしたか。  
栗田 舞台芸術全般、特にミュージカルが大好きでしたから、舞台ばかり観に行っていましたね。当時は「観劇実習」という授業があって、歌舞伎・能・狂言、人形浄瑠璃、創作ダンス、現代劇など、幅広く舞台芸術に触れさせてもらいました。担当教授はロシア演劇が専門の永田靖先生と能楽研究者の天野文雄先生で、あの時、阪大にいななければできないような貴重な経験をさせてもらったと思います。



—アカペラサークルに入っておられたとか。

**栗田** ええ。入りたかった軽音楽部S.W.I.N.G.は入部希望者が多くて、どうしようかなと迷っていたら、ちょうど隣で「ドゥワーワー、ドゥワーワー……」と歌っている人たちがいたんです。サークルオリエンテーションの時です。その歌声にひかれて、すぐアカペラサークル「spiritual voices」に入りました。練習場所は共通教育棟の隣にある広場。毎日、昼休みになるとここに集まって、みんなでお弁当を食べたり、練習したり。わずかな時間でも集まっていたし、夜遅くまで練習していました。

—今でも夜12時を過ぎても歌声が聞こえてきますよ。

**栗田** そうですか。阪大生って、ほんとに遅くまでキャンパスにいますよね。基礎工学部なんか夜中まで煌々と電気がついてたのを覚えています。私は夜の練習が終わったら、友人の家に集まって鍋などをして色々語り合っていました。とても懐かしい思い出です。

—アカペラサークルは2017年に発足20周年を迎え、現在は約200人が在籍しています。



**栗田** 大所帯ですね。私はサークルの2期生で、当時のメンバーは20〜30人ほど、歌が上手な人はかりでした。アカペラブームに火をつけたテレビのバラエティ番組の企画「ハモ

## 常に最高のパフォーマンスを心掛け

—2010年5月に帰国後、2012年にCDデビューされ、現在はどのような活動をされていますか。

**栗田** コンサートやライブで歌うのと、ボーカルレッスンがメインの仕事です。2015年に作曲家の山本翔太さんと童謡や唱歌をジャズ風にアレンジするユニット「さとのうた」を結成し、動画投稿サイト「YouTube」内の「さとのうたチャンネル」で公開しています。映画「となりのトトロ」のオープニング曲「さんぽ」は約500万回も再生されていて、すごくありがたいと思っています。

また、ジャズバイオリニストの加知優磨さんが考案した初心者向けのバイオリン「フレックシー」の普及活動にも関わっています。子どもたちに音楽を身近に感じてほしいと思って考えたフレット付きのバイオリンです。バイオリンを全く触ったことがない私でも5分で「きらきら星」が弾けるようになったんです。早い段階で「できたー」という達成感を味わ



ネブリーグ」がはやり始めた頃で、番組に出た人もいました。サークルのメンバーがアカペラグループ「S.W.I.N.G.」を結成してプロデビューしました。メンバーの中の二人は同級生なんです。

—なぜ、音楽の道へ進むと思ったんですか。

**栗田** 阪大卒業後は、企業の経営企画部で仕事をしていました。ちょうど会社が上場する時期で、経営の中核となる人たちを間近に見て、仕事の面白さを感じていました。でも、忙しすぎて一生続けるのは無理かなとも思うようになって。入社して2年目でした。少しでも自分の好きなことをしたいと、自己投資のつもりで週末に甲陽音楽学院へ通い、歌のレッスンを始めました。将来は音楽教室の先生になれたらいいな、そのくらいの気持ちで始めたら、どんどん楽しくなってきました。結局3年半ほど会社勤めをしていましたが、後半の2年間は音楽学院と両立させました。

—留学はどんな経緯だったんですか。

**栗田** ほんとにラッキーの一言なんです。音楽学院を卒業する間際、ほんの軽い気持ち、力試しのつもりで、パークリー音楽大学の奨学金の試験を受けたら、奨学金をいただけることになったりして。今しかできないことだと思ってることにしました。留学したのは2007年でした。

パークリーはプロ養成学校のようなところですが、すでに母国でプロ活動している人も世界中からわえると、次へのモチベーションになるし、何より楽しめるでしょ。音楽って、テクニックだけじゃない。仲間と息を合わせてひとつの音楽を作る喜びが大きな醍醐味ですから。名古屋芸術大学で学生に教える時も技術的な指導ばかりにならないよう、それぞれの個性を生かすような指導を心掛けています。

—ジャズの魅力は、やりがいはいくつありますか。

**栗田** やはりお客さんに「今日、聴きにきてよかった」と言ってもらえることがやりがいになります。コンサートやライブは毎回が勝負。演者が互いの音を聴き合いながら、その場の雰囲気を作り上げるのがジャズのよさです。だから一回にかける集中力が面白さであり、魅力ですね。

私にとって音楽は、自分らしさを表現するツールです。最高のパフォーマンスができるように普段から自己管理は欠かせません。華やかさうに見えるけれど、実際は、ひたすら練習するような地味な生活なんです。笑

—アクセサリー&コサージュブランドも手掛けておられるとうかがいます。

**栗田** 自分らしさを表現するために、曲に合わせた衣装や小物にもこだわるようになって、手作りが得意な母がアクセサリーやコサージュを作ってくれています。母の作品を見た人から誕生日プレゼントや入学式用のコサージュを作してほしいと依頼があったのをきっかけに、オリジナルブランド「アトリエ・ラパン」として、ネット販売しています。機会があれば、のぞいてみてくださいね。

—今後の展望をお聞かせください。

**栗田** ライブ会場などで「私も阪大出身だよ」と応援してくださったり、「社長が阪大出身なので



集まっています。そんなところに飛び込んでしまったんです。今思えば、無謀だった(笑)。留学してから「これは本気にならんといかんぞ」と、ようやく火がつきました。それからですね、真剣に音楽と向き合うようになったのは。

—レッスンは全て英語ですよ。

**栗田** もちろん。阪大の文学部で英語は勉強したし、留学前にも準備していたので、あまり心配していません。日常会話がさっぱりできない。留学当初はスーパードラッグで紙袋かビニール袋か聞かれる「ペーパープラスチック？」すら聞き取れなくてショックでした。逆に分かったのは音楽用語だけで。授業は常に録音して毎夜聞き直すのが日課でした。泣きそうになりながら必死に勉強しました。

パークリーでは、ボーカルテクニックや作曲をメインに学びました。歌のレッスンでは「音程は悪くないけど英語の発音がダメね」と指摘されるばかりでした。悔しいけれど、発音は一朝一夕には上達しないので苦労しましたが、その分、得たものも大きかったです。2年半の留学中には、発声法も徹底的に叩き込まれ、表現の幅も広がりました。

会社のパーティーで歌ってくれますか」と声を掛けてもらうことが増えてきて、阪大ネットワークの広さを感じています。これからもつながりを大切にしていきたいです。

これまで自分の進むべき道に悩んだ時は、その都度、最もワクワクできるものを選択してきました。その先に現在の私があります。これからもワクワクし、毎日を誰よりも楽しむ。そうあり続けたいと思っています。そして、多くの人に私の歌を聴いていただけるようにしたいと思っています。

—今日は素敵なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



最新アルバム「That's my way」

### ■インタビュー

工学研究科総務課  
小住大生  
(2012年 人間科学部卒業)  
渉外課  
松本紘果  
(2016年 文学部卒業)



### 栗田麻利子(あわだまりこ)

岐阜県可児市出身。多治見北高校卒業。2003年大阪大学文学部卒業。会社員を経て、2007年から米国・ボストンにあるジャズの名門、パークリー音楽大学に留学。2009年12月にプロフェッショナルミュージックメジャーを首席卒業。2012年のCDデビュー以来、コンサートやライブ公演のほか、童謡や唱歌をジャズ風にアレンジするユニット「さとのうた」を結成するなど幅広く活動中。2017年4月から名古屋芸術大学音楽領域非常勤講師として後進の指導にも当たっている。  
●栗田麻利子ホームページ <http://awadamariko.jp>  
●さとのうたチャンネル <https://www.youtube.com/satonouta>